

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Heterololigo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 1歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～4月)、九州～東北の沿岸各地
索餌期・索餌場: 夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層
食性: 外套背長50mmまでは主に小型のカイアシ類、成長とともに大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
捕食者: 不明

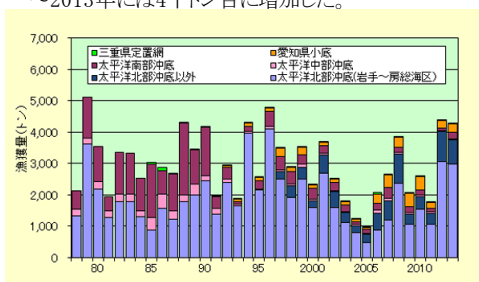


漁業の特徴

主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総沖)では1そうびきオッターコントロールによる沖合底びき網(沖底)、太平洋中部海域(伊豆沖～熊野灘)では沖底の1そうびきおよび愛知県外海小型底びき網(小底)、太平洋南部海域(紀州沖～薩南海域)では主に沖底の2そうびきにより漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1978～2013年には947～5,121トンの間を増減した。1990年までは北部と中部・南部はほぼ同程度であったが、1991年に南部沖底で急減し、以後は北部が大部分を占めている。2005年に最低の947トンとなったが、その後、増減した後、2010年に2,596トンとなった。2011年には東日本大震災の影響により1,778トンに減少したが、2012～2013年には4千トン台に増加した。

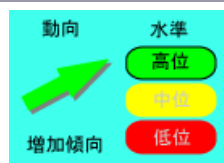


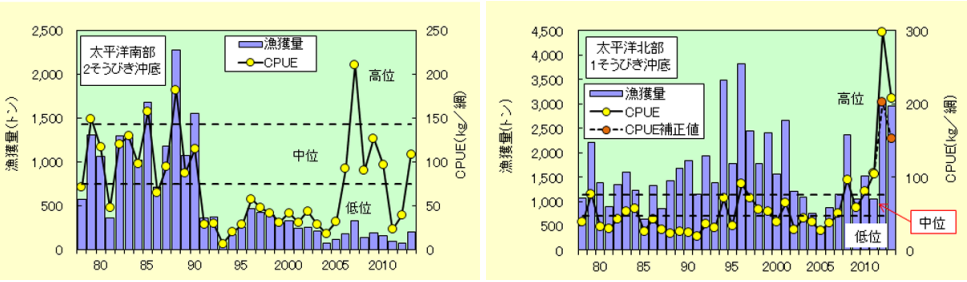
資源評価法

太平洋北部と太平洋中部・南部とでは、資源指標値の変化傾向が異なるため、両者を分けて資源評価を行った。太平洋北部では1そうびきオッターコントロール沖底のCPUEを、中部および南部では2そうびき沖底のCPUEを資源量の指標とした。2012～2013年の太平洋北部のCPUEは、福島県船の操業自粛の影響を受けていると考えられるため、補正値を用いた。

資源状態

北部1そうびきオッターコントロール沖底のCPUEは、1985～1993年に低水準が続いたが、1994～2009年には中～低水準の間を変動した。2011年には東日本大震災の影響で漁獲努力量が大幅に減少したが、CPUEは高水準となり、2012～2013年の補正値も高い値を示した。南部2そうびき沖底のCPUEは、1990年まで中水準を基調に高～低水準の間を変動していたが、1991～2005年は低水準が続いた。2006～2010年に中～高水準となったが、2011～2012年に低水準となり、2013年には中位水準となった。系群全体の資源状態は、漁獲量の大部分を占める太平洋北部を優先し、高位・増加と判断した。





管理方策

水準・動向が高位・増加にある本資源の管理目標としては、資源の適切な有効利用を図るべきである。基本規則2-1)により $ABClimit = \delta_1 \cdot Cave \cdot \gamma_1$ として、北部と中部・南部それぞれの $ABClimit$ を算出し、合計したものを系群全体の値とした。 δ_1 は資源状態によって決まる係数(北部1.0、中部・南部1.0)、 $Cave$ は2011～2013年の平均漁獲量、 γ_1 は資源量指標値の過去3年の傾きと平均値から求める係数(北部1.15、中部・南部1.75)である。これに安全率0.8を乗じて $ABCtarget$ とした。系群全体の δ_1 を漁獲量の多い北部を重視して1.0とした場合、 γ_1 は1.22となる。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	4,200トン	$1.0 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot 1.22$	-	-
ABCtarget	3,400トン	$0.8 \cdot 1.0 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot 1.22$	-	-

- $Cave3\text{-yr}$ は2011～2013年の平均
- ABCは10トンの位を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 北部1そうびきオットートルール沖底のCPUEから、北部では高位・増加
- 南部2そうびき沖底のCPUEから、中部および南部では中位・横ばい
- 漁獲量の多い北部を重視して、系群全体として高位・増加と判断

管理方策のまとめ

- 北部では資源の有効利用を図るべき
- 東日本大震災後の北部での漁獲努力量の変化を見守る必要
- 中位水準に回復した中部・南部の動向を注視すべき

執筆者: 服部 努・伊藤正木・成松庸二・柴田泰宙・酒井光夫・梨田一也

資源評価は毎年更新されます。